優秀賞 「都市景観の日」実行委員会 会長賞

白河市における景観学習

活動エリア　福島県白河市

応　募　者　白河市、日本大学工学部建築学科住環境計画研究室、白河市立白河第一小学校、白河市立釜子小学校、白河市立関辺小学校、白河市立みさか小学校、白河市立大信小学校

活動概要

景観とは見る人が何かを感じる眺めのことである。白河市には四季折々の美しい自然風景、歴史的な建物、だるま市や提灯祭りといった伝統行事など様々な景観がある。これらの景観を次世代につないでいくために、2017年より景観学習を実施している。児童だけでまち歩きをするのではなく、講師の先生と協力してもらう大学生のほか、立ち寄ったお店の方や町を歩いている地元の方からお話しを聞く機会を設け、地元に愛着と誇りを持ってもらえるように工夫している。さらにタブレットによる写真撮影や発表方法の工夫など ICT 技術の活用を図っている。まとめたレポートを保護者の前で発表、市立図書館のエントランスギャラリーに展示等、保護者の方々や地域住民への景観啓発についても意識している。景観学習を開始してから8年が経過したが、景観学習ルート付近の空き家･空き地がオープンガーデンに変化するなど、見られる側の意識の変化も起きているため、今後も活動を継続していきたい。

審査講評

2014年度に都市空間部門で優秀賞を受賞している地域を含めた白河市の景観学習の取り組みです。これまでの景観啓発が大人向けの施策が中心であったのに対し、若い世代を中心として実施し長い時間をかけて「市民の景観への意識を高める」取り組みです。子どもたちが大人になった時、日常生活で景観に配慮できるような次世代の人材育成を目指しており、地域を含めて「学校を舞台とした景観学習」を推進している意欲的な取り組みとして評価されました。白河市は、「平成の大合併」で現在のカタチになっていますが、越後高田藩の飛び地があるなど、日本海側の影響も受けており、小峰城がある城下町でもあり、歴史的遺産や自然が多く残り、多様な文化的遺産がのこる地域資源が多い地域です。1997年に景観条例を策定し、個性ある地区の特性を生かして景観まちづくり協定を次々と結び、地区・地域の方々が歴史的・景観まちづくりへの主体的参加も可能になり、それぞれの地域の個性を発露するような仕組みを積み上げてきています。さらに、小学校での景観学習への取り組みを地域の大学人が独断で進めることもなく広い視野で支援し、児童の育ちのモデルとなる大学生もかかわり、相互に良好な影響を及ぼしています。一方、白河市の義務教育にかかわる「白河市教育大綱」（2015年）も文部科学省が教育課程を変革してきた内容を先取りしてきた「主体的な学びと実践力の向上、地域の自然への配慮など」の方針を取り入れて、次世代育成への確実な歩みを積み上げてきています。この景観学習の取り組みは、地域社会との連携性や協働性が顕著で、地域での対話が十分に行われ実施学校を確実に増やしています。さらに地域資産が多く進化・深化していく可能性が期待できる取り組みとして高く評価され、優秀賞となりました。（小澤）

市岡先生による景観に関する講義の様子。

まち歩き中に気になったところをタブレットで写真撮影します。

班毎にオリジナルの景観マップを作成します。

出来上がったレポートをもとに、班毎におすすめ景観を共有します。